

『あらきとうりょう』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
小田 真	宗教々育の問題	1	17
坊 芳春	「無所有」について	1	38
植田 英蔵	教会の意義	2	23
高野 友治	講社の研究	2	12
林 功	因縁について	2	334
深谷 忠政	天理教に於ける「社会救け」の理念	2	2
岸 義治	天理教に於ける悪の問題	4	17
坊 芳春	病の理	4	51
深谷 忠政	天理教教会論 1	4(50)	5
植田 平一	おさしづを中心とした身上たすけのお言葉について	5	53
斎藤 辰雄	教祖昇天と東京伝道	5	45
田邊 教一	「元の理」に関する一考察	5	20
安藤 治正	教会に於ける青年育成の要素	6	7-14
岸 義治	神の立腹について	6	50
斎藤 辰雄	教典鮮訳攷	6	83
橋本 武	「おふでさき」にみる人間究明の諸問題	6	15
諸井 慶徳	元の理について	6	93
金子 圭助	魂の経歴	7	81
高野 友治	青年活動の歴史	7	5
林 功	縁談について	7	55
深谷 忠政	天理王命	7	102
岡本 博美	ひのきしんの現況	10	77
小野 清一	布教の意義について	10	10
高野 友治	御昇天後の布教	10	18
橋本 兼正	布教の一環としての文化布教	10	32
中山 慶一	教祖御在世時代の布教 1-3	2010/1 1/14	
橋本 武	「元の理」序説	12	33
村上 英雄	世界創造と元の理	12	28
今村英太郎	ふうふの理について	13	26
小野 清一	一れつきょうだい	14	21
高野 友治	伝道者の宿	15	46
中島 秀夫	「かしもの・かりもの」の教理	24	54
芹澤 茂	心の自由について	25	38
吉村正一郎	「自由について」	25	46
大久保昭教	宗教団体と社会事業	26	5
山本久二夫	「やまい」について	26	30
中山 慶一/平野 知一	秀司先生と初代真柱様	31	16
平野 知一	秀司先生と初代真柱様	31	16
大久保昭教他	「談じ合い」について(座談会)	34	44
中島 秀夫	「談じ合い」について(座談会)	34	44
橋本 巨影	釜山の煙	38	60
橋本 巨影	コロンスの土	39	62
橋本 巨影	大連の灯	40	76
橋本 巨影	マルクヨクの渚	41	62
今村 俊三	医薬と信仰	42	108
橋本 巨影	鴨緑江の橋	42	138
畑林 清次	海外布教躍進の旬	42	44
松田 武輝	教祖存命の理	42	102
芹澤 茂	知識人と信仰	43	14
中西 昭明	教会の理	43	92
野々口格三	新しい時代の組織と人間	43	20
橋本 巨影	台湾への道	43	112
橋本 巨影	マニラの石	44	136
矢持 辰三	つくし・はこび	44	88
荒木 健夫	先人の足跡に見るたすけ一条の意気	45	39-43
谷岡 元喜	布教活動の現状はこれでよいか	45	30
橋本 巨影	塩浦の旗	45	130
松本 洋明	現代における布教の心理	45	44
橋本 巨影	テムスの涙	46	112
松隈 青壺	貧のどん底と陽気ぐらし	46	88
橋本 巨影	京城の塔	47	132
平野 知一	たすけ一条の喜び	47	25
矢持 辰三	ひのきしん	47	93
金子 圭助	「いんねん」の教理	48	94

『あらきとうりょう』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
橋本 巨影	遼陽の露	48	136
荒木 健夫	国々所々 1-6	48-53	
梅棹忠夫/深谷忠政	異民族への布教は可能か(対談)	49	118
寺田 好和	「おかきさげ」の精神	49	76
深谷 忠政	異民族への布教は可能か(対談)	49	118
木村 牧生	疾風怒涛の時代 1-5	49-53	
「あらきとうりょう」編集部	なぜそんなことがあり得るのか	(14) 50	195
田邊 教一	病のさとしの一考察	(9) 50	181
岸 義治	おふでさきに現われたてびきの教理	51	92
芹澤 茂	天理教では夫婦をどうみるか	51	26
一瀬 俊夫	開拓者魂こそ天理教信仰の真髄	52	54
塩谷 悟	世界の伝道史に見る開拓者魂	52	47
深谷 忠政	体験的アメリカ布教論	52	40
高野 友治	親神様のご守護の説き分け 1-2	52-53	
長谷山八郎	現代の人づくりと天理教	53	24
芹澤 茂	親と子の正しい姿	54	26
坊 芳春	現代の親子関係とその教理	54(10)	20
澤潟 久敬	心とは何か、からだとは何か	55	6
岸 義治	天理教の心身観	55	36
芹澤 茂	「身上さとし」の本質について	55	30
飯田 照明	心と身体のか考え方	55(10)	12
中島 秀夫	天理教信仰と物質生活について	56	78
芹澤 茂	天理教信仰で人はどう変わるか	57	36
中島 秀夫	信仰による生き方の転換	57	42
矢持 辰三	「たとえ」の教説の意味	57	54
大久保昭教	家庭教育と信仰	58	38
橋本 武	ちばと親神の顕現	58	67
松隈 青壺	きりなしふしんの理念と実動	58	93
宮崎 道雄	私の「医学・信仰」論	58	88
高野 友治	天理教の理想的人間像	59	28
矢持 辰三	教祖の道具衆	59	68
澤井 勇一	おてふり私論	60	74
「あらきとうりょう」編集部	別席制度と御教えの実践	218	60-69
芹澤 茂	世界の事情から陽気ぐらしへ	61	26
長野 治興	真実なる自己実現の道	61	84
矢持 辰三	年祭と世界の動き	61	21
泉 宏	おふでさきのすすめ 1-4	62-65	
飯田 照明	信仰と医薬の融合するところ	63	40
澤井 勇一	おまもり考	64	76
伊橋 房和	「講」について	65	58
金子 圭助	教祖の御苦勞とその周辺	65	120
高野 友治	陽気ぐらしは創造の世界	65	40
金子 正	みかぐらうたへの態度	66	50
矢持 辰三	よろこびの探求	67	64
芹澤 茂	原典に見るみちとせかい	68	30
松田 武輝	子供の育成について	68	60
「あらきとうりょう」編集部	地域活動の現代的意義と問題点	69	20-43
澤井 勇一	「談じ合い」について	69-70	
竹村 英郎	ブラジル事情	69-70	
飯田 照明	海外布教者の養成について	70	60
松本 滋	比較文化論より見た海外布教	70	45
泉 宏	「仕込み」について	71	60
矢持 辰三	神一条と世界の事情	72	74
澤井 勇一	「とき」「ところ」「ひと」のいんねん	73	54
谷岡 元喜	教祖ひながたの現代的認識	73	74
西山 輝夫	神一条への復帰	73	36
岩谷 富治	社会倫理研究への序説	74	84
高野 友治	言葉の感じ	75	84
上田 嘉成	天理教祖の平和観	76	40
坊 芳春	いんねん	77	92

『あらきとうりょう』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
高野 友治	教祖に見る政治と宗教	79	76
大久保昭教	「ひのきしん」の現代的意味	79(10)	21
川口 浩	「出直、生れ更り」について 1-2	80-81	
金子 圭助	陽気ぐらしの黎明	82	26
高野 友治	人間いかに生きるべきか	82	32
安井 幹夫	おふでさきにみる教祖ひながた	82	68
宮田 元	天理教の世界観にみる特性	83	72
西山 輝夫	神一条の態度について	84	88
矢持 辰三	無理という理は治まらん	85	38
上田 嘉成	世界のふしん 1-2	86-87	
諸井 慶一郎	世界中の胸の掃除	88	96
中島 秀夫	信仰生活と教理	89	12
西山 輝夫	教理史についての感想	89	54
飯田 照明	教団の意義と目的	90	16
石崎 正雄	天理教の儀礼変容	90	68
笹田 勝之	祭儀様式と翻訳の諸問題	90	97
塩谷 悟	海外伝道における適応論	90	80
島田進治郎	実践教理を目指して	90	28
曾山 俊	祭儀式様式と翻訳の諸問題	90	96
高野 友治	教会の史的回顧と展望	90	128
高橋 定嗣	教団のモラル向上について	90	50
村上 忠雄	私の教会	90	144
「あらきとうり よう」編集部	教団—その問題と展望	90	6-15
「あらきとうり よう」編集部	「膨脹する教団」を考える	90	154-163
中島 秀夫	教会 その理念と現実	90(10)	120
泉 宏	御事歴に学ぶ	91	42
金子 圭助	御事歴に学ぶ	91	32
澤井 勇一	御事歴に学ぶ	91	36
高野 友治	御事歴に学ぶ	91	52
田邊 教一	御事歴に学ぶ	91	46
中島 秀夫	御事歴に学ぶ	91	28
中山 慶一	ひながた	91	12
松岡 国雄	御事歴に学ぶ	91	20
矢持 辰三	御事歴に学ぶ	91	24
諸井 慶一郎	ひながたの道を通るとは 1-2	91-92	
高橋 定嗣	夫婦とは何か	98	26
佐藤 浩司	教理にみる出直し	99	38
「あらきとうり よう」編集部	現代と信仰	100	46-92
中島 秀夫	ちば定め of 意義	101	36
「あらきとうり よう」編集部	「ちばの理」概説	101	20-35
「あらきとうり よう」編集部	年祭回顧略	102	32-83
深谷 忠一	海外布教伝道における諸問題	103	20
諸井 慶一郎	「くらし」の教理	104	44
飯田 照明	知識と信仰	105	26
上田嘉太郎	宗教の立場と科学の立場	105	32
松本 滋	信仰と学問	105	45
矢持 辰三	道と学問	105	39
田邊 教一	元の理について	105-110	
池田 士郎	宗教における個人と社会	106	34
一瀬 俊夫	「たすけ」について	106	28
安井 幹夫	「心定め」について	107	22
澤井 勇一	信仰は一名一人かぎり	108	38
飯田 照明	教学研究の明日	109	28
諸井 慶一郎	ちばへの伏せ込みとしてのひのきしん	109	45
笹田 勝之	「つくし・はこびの教理」	111	21
中山 信男	心の勤め・身の勤め	111	30
大久保昭教	親と子	112	34
芹澤 茂	原典に即した布教伝道の試論	113	35

『あらきとうりょう』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
高野 友治	教勢膨脹期の布教態度	113	23
飯田 照明	イドラの克服	114	34
高野 友治	教理	114	66
西山 輝夫	教学研究の基礎的態度考	114	23
中島 秀夫	教学研究の歴史	114	43
飯田 照明	教祖論をめぐって(座談会)	115	95
池田 士郎	教祖論をめぐって(座談会)	115	96
石崎 正雄	教祖ご苦勞の時代背景	115	84
白石 梅夫	教祖ひながたとおふでさき	115	46
安井 幹夫	教祖論をめぐって(座談会)	115	96
		115/11	
笹田 勝之	おやさま論構築への道	7	
小池 一	布教伝道の精神	116	116
中山 信男	お歌の力と味わい	117	66
西山 輝夫	いんねんの教理	117	77
池田 士郎	身体論をめぐって	118	61
安井 幹夫	世上働きと道一条	118	17
青木 善伸	「水の理」について	119	83-91
金子 圭助	「一手一つとは」	119	334
佐藤 浩司	天理文化についての一考	120	87
磯部由美子	おつとめの音楽的考察	121	18
小林 正佳	つとめの舞踊論	121	96
三幣 博明	おつとめの音階と速度について	121	109
荒木 健夫	赤いふんどし(教学研究)	122	109-122
伊橋 房和	北礼拝場ふしんに示された神意	123	14
金子 圭助	おさしづに見る「おやさとふしん」考	123	28
高野 友治	世界のふしん	123	41
高野 友治	宇宙からのメッセ	124	52
村上 英雄	教学研究 1 十柱の神々と裏守護	124	96
「あらきとうりょう」編集部	座談会	124	58-63
		126-12	
矢持 辰三	教学研究 1-4 〈ちばの理/一れつ兄弟姉妹(一手一つ)について/心の自由/出直し〉	7/129-130	
矢持 辰三	教学研究 1 〈ちばの理〉	126	111
佐藤 浩司	教会について	127	12
矢持 辰三	教学研究 2 〈一れつ兄弟姉妹(一手一つ)について〉	127	94
芹澤 茂	我流信仰の史実と信仰の反省	128	34
中島 秀夫	個性と我流のはざままで	128	70
矢持 辰三	我流信仰の基盤	128	46
高野 友治	「生まれ替わり」について	129	12
橋本 武人	いんねん	129	26
矢持 辰三	教学研究 3 〈心の自由〉	129	106
宮田 元	陽気ぐらし実現こそ、真の平和世界	130	46
矢持 辰三	教学研究 4 〈出直し〉	130	120
矢持 辰三	ひながたの意味	131	24
池田 士郎	天理教の労働観素描	132	56
		132-13	
小松松太郎	教学研究 1-4	5	
佐藤 浩司	救済	133	40
高野 友治	かんろだいづとめの模様と変遷	133	50
永尾 廣海	かぐらづとめと陽気ぐらし	133	20
三濱 善直	神様がおつくりくださったおめん	133	32
今村 俊三	青年会の誕生と教祖四十年祭の歩み	134	22
加藤亀代治	教祖七十年祭と青年の動き	134	36
上村福太郎	迫害・干渉と先人の歩み	135	30
山田 忠一	ひながたにみるご苦勞の道すがら	135	18
池田 士郎	不思議の見える場	136	66
		136-13	
佐藤 浩司	かぐらてをどり 1-4	7/139-140	
橋本 武人	啓示と教祖	137	20
矢持 辰三	教祖のひながたを辿る意味	137	52
		137-13	
柏木 大安	「元の理」を考える 上・下	8	
山田 光二	差別と人権	137-13	

『あらきとうりょう』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
		9	
池田 士郎	回帰・再生・出発	139	40
矢持 辰三	かぐらづとめへの参画	139	50
松谷 武一	おやさまがお姿を隠された日	142	80
岸 義治	天理教文化伝道史序説	143	32
佐藤 浩司	文化布教への提言	143	48
矢持 辰三	つくし・はこびの教理	144	22
高野 友治	伝道史に見るつくし・はこび	144	36
深谷善太郎	幕末期の大和の状況	146	74
今村 俊三	兩年祭活動とその精神	147	24
柏原 一郎	兩年祭から弾圧へ	147	38
松谷 武一	「翁より聞きし咄」の一考察	149	306
天理教青年会 史料調査班	教祖伝史料の検討	149	22
金子 正	ゆがめられたおやさまと教え	149	282
矢持 辰三	教理にみるひのきしん	152	28
金子 圭助	教史にみるひのきしん	152	40
澤井 義則	ひのきしんの現代的展開と課題	152	52
金子 正	信条教育私見	153	46
中島 秀夫	教祖の道	154	32
安井 幹夫	異端の構図	154	62
諸井 慶一郎	かんろだいいちの道	155	20
飯田 照明	フィクションによる歪曲	156	84
田邊 教一	教会とその使命	159	22
山本 正義	教会系統の意義と役割	159	34
諸井 慶一郎	いんねんの教え	160	22
安井 幹夫	いんねん教理の特徴	160	54
森井 敏晴	歴史を通して見た「因縁」と「いんねん」	160	68
		160/16	
村上 道昭	「ひながた」の一考察	1	
飯田 照明	女性・母性・結婚・家庭について	161	20
村上 道昭	ふしの意味について	161	104
村上 道昭	ふしの意味について [教学研究 第3回]	162	104
矢持 辰三	「出直」の教理	163	18
山本 正義	現代のおたすけにおける出直論	163	30
		163-16	
村上 道昭	「出直」について 上・下 [教学研究 第4/5回]	4	
村上 道昭	「天理王命、教祖、ちばは、その理一つ」について [教学研究 最終回]	165	76
金子 正	事情に込められた親心	165	20
飯田 照明	霊術系新宗教とお道の立場	166	48
安井 幹夫	自称教祖とその周辺	166	66
矢持 辰三	伏せ込みを通しての自己修養とは	167	30
金子 正	「親様」再臨を質す	169	24
金子 圭助	教祖存命の理	169	36
金子 正	「親様」再臨を質す	169	24
金子 圭助	教祖存命の理	169	36
笹田 勝之	ご存命の教祖への信仰	169	50
飯田 照明	新しい世紀の創造に向かって	170	120
佐藤 浩司	教理研究の基本姿勢	170	56
中島 秀夫	歴史に学ぶ「神一条」	170	64
		171/17	
飯田 照明	「啓示宗教である」ことについて(1)	2	
		171-17	
飯田 照明	「啓示宗教である」ことについて 1・2	2	
今村 俊三	カルトに対する本教の態度	172	128
安井 幹夫	真柱	173	20
矢持 辰三	だめの教の展開と真柱の理	173	34
金子 正	真柱の理とわれらの信仰	173	42
茶本 光一	お月様の世界までにをいがけに	175	20
金子 圭助	伏せ込みにみる人物列伝	175	46
笹田 勝之	よくわかる天理教学入門「だめ(最後)の教え」たるゆえんについて	175-	
茶本 光一	お月様の世界までにをいがけに	175	20
金子 圭助	伏せ込みにみる人物列伝	175	46
笹田 勝之	「だめ(最後)の教」たるゆえんについて	175	86
田邊 教一	「正月二十六日の理」	175	108
笹田 勝之	「貧に落ち切られた」ゆえんについて	176	92

『あらきとうりょう』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
澤井 勇一	一つの理、一つの心	176	28
富松 幹禎	「ねりあい・談じ合い」の教義と実践	176	40
笹田 勝之	現代布教と教学の課題	177	30
矢持 辰三	おさしづ拝読の心得	177	42
笹田 勝之	「扉を開かれた」ゆえんについて	177	96
中島 秀夫	原典研究の軌跡	177	20
早田 一郎	原典研究のための参考文献	177	54
笹田 勝之	「りやく(利益)現す」ゆえんについて	178	104
中島 秀夫	「ふしから芽が出る」考	179	22
笹田 勝之	「この世は神のからだ」たるゆえんについて	179	92
田邊 教一	陽気ぐらしについて	180	18
茶本 光一	陽気ぐらしのにをいを発散できる人に	180	28
飯田 照明/金子 正/安井 幹夫/堀内みどり	<座談会>反陽気ぐらし世界観の限界と危険性	180	43
笹田 勝之	「おちばへ帰る」ゆえんについて	180	112
安井 幹夫	「革新」とその背景	181	18
土佐 剛直	すべての物事を教理によって判断する	181	50
加藤 亀代治	復元青年会の理念	181	62
茶本 光一	布教伝道について	181-183	
梶本 國彦	鳴物の勉強	182	44
諸井 慶一郎	てをどりの道	182	26
小松 松太郎	信仰の要諦	182	58
小森 正信	陽気ぐらしの招来を願って	182	64
「あらきとうりょう」編集部	末代続く信仰を考える	183	16-25
金子 正	信仰を受け継ぐ時	183	26
瀬戸 嗣治	お道と他宗教 (1)	183-186	
飯降 政彦	「おつとめについて」	183	98
三濱 善朗	海外をめざすあらきとうりょう	183	115
澤井 勇一	心澄み切る教えやで	184	28
金子 正	天理教教理に見る夫婦・親子私観	185	42
森井 敏晴	私が考える「孝」の世界	185	60
澤井 勇一	「はなし一条」は「たすけの台」	186	30
林 文男	忘れてはならないこと	186	114
飯田 照明	二代真柱様と海外布教伝道	187	50
安井 幹夫	神にもたれること	188	38
林 文男	復元の歩みと諸相 (1)	188-189	
橋本 武人	画龍点睛の実	189	58
中島 秀夫	復元と原典の公布	189	68
澤井 勇一	「カメの努力、カメの結果」	189	78
田邊 教一	神が表へ現われて	190	28
中山 もと	教祖はご存命	190	40
金子 圭助	親心のぬくもり	190	54
佐々木 久育	万波を越えて	190-193	
荒木 健夫	たすけ一条の足跡	191	66-85
田邊 教一	「しんばしらの理」と時句	192	16
金山 忠裕	「をや一条」と「をや心」の道	192	26
矢持 辰三	芯に真実の肉を巻く	192	38
澤井 勇一	日常のモノサシ、天のモノサシ	193	58
荒木 健夫	一人万人に向かう心意気を	194	70-89
金子 圭助	海外布教師の実像を探ねて (1)	194-197	
澤井 勇一	魅力ある人と出会う楽しみ	195	12
「あらきとうりょう」編集部	おさしづと青年	195	56-81
田邊 教郎	稿本天理教教祖伝逸話篇に見る「教えに基づく生き方」	197	28
田邊 教一	時句についての思案	198	22
安井 幹夫	お道の後継者の現状と展望	198	30

『あらきとうりょう』誌の記事

著者名	論文名(タイトル)	号数	掲載頁数
飯田 照明	思案し掘り切る努力を	199	32
板倉 知治	お道の教育観について	199	44
澤井 勇一	日々という常という	200	30
堀内みどり	現代の問いを考える	200	40
茶本 光一	教学研究 教理を基に家庭教育を考える 第1回	200-20 5	
安井 幹夫	世界たすけのリーダーとしての天理青年に求められるもの	201	32
金子 正	「育つ」と「育てる」	202	54
安井 幹夫	「もと」をたずねる	203	34
山中 修吾	原典研究の歩み	204	58
金子 圭助	癒しとたすけ	205	42
田邊 教一	原典の覚えがき 第1回	206-21 1	
宇恵伊公子	天理に添う男・女のあり方を求めて	207	20
「あらきとうりょう」編集部	教祖御年祭をもとに教史を振り返る 第1部-第3部	209-21 2	
金子 圭助	おやさまの面影をたずねて 第1回~第5回	209-21 3	
「あらきとうりょう」編集部	教会の成立に関する親神様の思召について	210	76-97
「あらきとうりょう」編集部	啓示の継承について	210	98-111
「あらきとうりょう」編集部	教会成立に関する親神様の思召について	210	76-97
「あらきとうりょう」編集部	啓示の継承について	210	98-111
安井 幹夫	天理教の神観について	210	112
松田 理治	青年会海外伝道略史(前編) 一創立以前より革新まで一	215	56-73
松田 理治	青年会海外伝道略史(後編) 一太平洋戦争後から現在まで一	216	52-79
寺田 好和	おさづけの理について 一個人たすけと世界たすけ一	218	22-31